



“いま、和賛心のとき”

# フォーラムたより

2024

10月号

No.64

## 「人が人を助けるのが人間である ―息の長い支援を―」

金光教首都圏災害ボランティア支援機構 事務局長 宮田和弘

今年元日に起きた能登半島地震から九ヶ月が経ちました。「金光教首都圏災害ボランティア支援機構」(以下、支援機構)では、富山県射水市のマンションの一室「こんこうボランティアハウス」(射水市太閤山九一〇一室)を賃貸契約し、金光教富山教会や信越教務センターの協力の下、一般社団法人「ひかりプロジェクト」と共に今年の四月から被災地での支援活動を開始しました。

今年元日に起きた能登半島地震から九ヶ月が経ちました。「金光教首都圏災害ボランティア支援機構」(以下、支援機構)では、富山県射水市のマンションの一室「こんこうボランティアハウス」(射水市太閤山九一〇一室)を賃貸契約し、金光教富山教会や信越教務センターの協力の下、一般社団法人「ひかりプロジェクト」と共に今年の四月から被災地での支援活動を開始しました。

今年元日に起きた能登半島地震から九ヶ月が経ちました。「金光教首都圏災害ボランティア支援機構」(以下、支援機構)では、富山県射水市のマンションの一室「こんこうボランティアハウス」(射水市太閤山九一〇一室)を賃貸契約し、金光教富山教会や信越教務センターの協力の下、一般社団法人「ひかりプロジェクト」と共に今年の四月から被災地での支援活動を開始しました。



災害廃棄物の仕分け作業

このボランティアハウスは、ボランティアのために能登地方を訪れる人に解放されており、手続きを踏めば誰でも利用出来ます。2DKバストイレ付きで電気・ガス・水道も完備しており、生活に必要なものもほぼ揃っています。ぜひ一人でも多くの方に活用してもらいたいと思います。

被災地でボランティアを依頼する人の多くが、「まさか自分もこんな被害を受けるとは思ってもみなかった」、「自分はこれまで人のためにボランティアをしたことがないのに、ボランティアをお願いするのは申し訳ない」と言われます。でも、被災地では全国から集まった学生さんから八十歳を越える高齢者まで、男女問わず様々な人がボランティア活動で汗を流しています。その多くが「少しでも被災地のお役に立ちたい、困ったときはお互い様」という思いで活動しています。

被災地でボランティアを依頼する人の多くが、「まさか自分もこんな被害を受けるとは思ってもみなかった」、「自分はこれまで人のためにボランティアをしたことがないのに、ボランティアをお願いするのは申し訳ない」と言われます。でも、被災地では全国から集まった学生さんから八十歳を越える高齢者まで、男女問わず様々な人がボランティア活動で汗を流しています。その多くが「少しでも被災地のお役に立ちたい、困ったときはお互い様」という思いで活動しています。

被災地における活動として、主に被災家屋からの家財の運び出しや災害廃棄物の処分、片付け、炊き出し等を実施してきました。(活動人数延べ約百二十名、八月末現在)

被災地における活動として、主に被災家屋からの家財の運び出しや災害廃棄物の処分、片付け、炊き出し等を実施してきました。(活動人数延べ約百二十名、八月末現在)

被災地における活動として、主に被災家屋からの家財の運び出しや災害廃棄物の処分、片付け、炊き出し等を実施してきました。(活動人数延べ約百二十名、八月末現在)

## 「能登半島地震ボランティア活動 ―皆様のお力をお貸しください―」

一般社団法人 ひかりプロジェクト 理事長 藤原眞久

能登半島地震に対して、金光教首都圏災害ボランティア支援機構(以下、支援機構)とひかりプロジェクト(以下、HPA)が共同で取り組んできた被災者支援のボランティア活動が始まり、五か月余り過ぎました。支援機構には大変お世話になっておりますこと、この場を借りてお礼申し上げます。

能登半島地震に対して、金光教首都圏災害ボランティア支援機構(以下、支援機構)とひかりプロジェクト(以下、HPA)が共同で取り組んできた被災者支援のボランティア活動が始まり、五か月余り過ぎました。支援機構には大変お世話になっておりますこと、この場を借りてお礼申し上げます。

能登半島地震に対して、金光教首都圏災害ボランティア支援機構(以下、支援機構)とひかりプロジェクト(以下、HPA)が共同で取り組んできた被災者支援のボランティア活動が始まり、五か月余り過ぎました。支援機構には大変お世話になっておりますこと、この場を借りてお礼申し上げます。

まず、この度の活動ができるようになったのは、「教内の連帯と協力」のたまものだと思います。

まず、この度の活動ができるようになったのは、「教内の連帯と協力」のたまものだと思います。

まず、この度の活動ができるようになったのは、「教内の連帯と協力」のたまものだと思います。

支援機構を始めとして、富山教会、信越教務センターとの連帯、また教内のいろんな方々のご協力によって、拠点が決まり、活動のための車両が準備でき、ボランティアハウスの様々な備品も揃いました。それもこれも、「かわいい(かわいいそう)と思う心が神心である」という教祖様の教えを共有させていただいているからこそだと思います。

支援機構を始めとして、富山教会、信越教務センターとの連帯、また教内のいろんな方々のご協力によって、拠点が決まり、活動のための車両が準備でき、ボランティアハウスの様々な備品も揃いました。それもこれも、「かわいい(かわいいそう)と思う心が神心である」という教祖様の教えを共有させていただいているからこそだと思います。

支援機構を始めとして、富山教会、信越教務センターとの連帯、また教内のいろんな方々のご協力によって、拠点が決まり、活動のための車両が準備でき、ボランティアハウスの様々な備品も揃いました。それもこれも、「かわいい(かわいいそう)と思う心が神心である」という教祖様の教えを共有させていただいているからこそだと思います。

ボランティアで現地に行くと、六十代以上のシニア世代の活躍が目立ちました。

ボランティアで現地に行くと、六十代以上のシニア世代の活躍が目立ちました。

ボランティアで現地に行くと、六十代以上のシニア世代の活躍が目立ちました。

七十歳を過ぎて初めてボランティアに参加した方から、役に立てるだろうかという不安も聞きました。翌日には同じ班のメンバーに「こうすればどうですか」と提案もして溶け込んでやっておられました。ベテランの知恵です。シニアも十分に役に立ち、それぞれの年代に応

七十歳を過ぎて初めてボランティアに参加した方から、役に立てるだろうかという不安も聞きました。翌日には同じ班のメンバーに「こうすればどうですか」と提案もして溶け込んでやっておられました。ベテランの知恵です。シニアも十分に役に立ち、それぞれの年代に応

七十歳を過ぎて初めてボランティアに参加した方から、役に立てるだろうかという不安も聞きました。翌日には同じ班のメンバーに「こうすればどうですか」と提案もして溶け込んでやっておられました。ベテランの知恵です。シニアも十分に役に立ち、それぞれの年代に応



炊き出しの準備 (富山教会にて)



珠洲市郊外の道路



# 東光園で御礼祈願祭奉行

副議長 岡本眞美

六月九日(日)午前十一時より東光園において、第三十四回首都圏布教御礼祈願祭を、約五十名の皆様とお仕えることができました。祭典の様子と祭詞・祭主挨拶の要旨が、八月二十八日発行の金光新聞紙面(第六面)で紹介されました。

首都圏布教百年を迎えた昭和六十三(一九八八)年の第一回より暫くの間、御礼祈願祭は教団独立記念祭前日に東光園を祭場に仕えられました。梅雨の最中のことなので、天候については大いに気を遣い、また祭壇の設え・調饌・祭員の更衣の為に近隣の教会控え所を拝借、予め教区の学院生など有志が集まり祭場となる東光園の草刈りを行って祭典に臨んだと、先達の方から伺っていました。

それから三十六年が経ち、環境も大きく変わっている中で、東光園を祭場にどのような形で御礼祈願祭を仕えさせていたただけるのか、あづまの道の礎とされた先覚先師に祈り継るような心持ちで、当日を迎えました。



(東光園欽挹亭)

参拝された方々より寄せられた声を、ご紹介します。  
○山梨に布教されてより百三十年、教師となって実は初めて東光園に來させて頂きました。コロナ明け久しぶりの御霊地に於ける御礼祈願祭に補助賛者としてのお役も頂き、感慨深い思いを致しました。(川込光貴先生・大明教会)

○首都圏布教にご尽力いただいた先覚先師のご霊神様に御礼申し上げ、さらなる布教発展をご祈念させていただく大切な祭典に、祭員として仕えさせていただきましたことは、大変ありがたいことでした。屋外での祭典であり、雨が心配された中での準備でしたが、当日の天候は、やはり雨。降り方も時折激しさを増すといった具合の空模様でしたが、それによって参拝者が皆、欽挹亭に入り固まることになり、「首都圏布教祈願詞」や「いま日はのぼる」など、声を一つにお唱えし、歌わせていただくことができました。これは、コロナにより集まることのできないという経験した私達に、「これからも首都圏布教、心一つに」という、神様からのメッセージが含まれていたのではないかと、密かに思わせていただいております。

来年はどのような形での祭典になるかはわかりませんが、その時にできるより良い形で、心一つに、仕えられますよう、祈念

しております。(畑覚先生・東京教会)  
○数十年前に、多くの参拝者の看板を持ち仕えさせて頂いた等、参拝をした覚えがありました。それが以降のご本部参拝をさせて頂いても、東光園に立ち寄る事が無かったことに、お詫びの気持ちが溢れました。東光園の石積みの一つ一つの大きさや、碑の高くそびえる姿に、先人の先生方の思いを感じ、東京で生まれ育った私が、金光教に出会わせて頂いた事に、有難く御礼を申し上げます。(竹崎敏子さん・野田市教会)

東光園での祭典を再び今年お仕えできた基として、有志各位(東光園の整備を平素から心がけて下さった方々、祭典奉行に必要な備品類の準備・運搬を進んで担って下さった方々、祭員更衣の場を快く提供して下さった方々、等)の真心があつたことを、深く感じています。来年に向けて、祭典の意義・精神を改めていただき直し、首都圏信奉者が心をひとつにしていただけることを願っています。



祭詞奏上

## 連合会通信

### 茨城・栃木教会連合会

茨城・栃木教会連合会では、六月二十四日(土)に小山市生涯学習センターにおいて教師信徒合同研修会を開催した。今年の研修テーマ「願いをかなえ、信心を伝えたい」に基づき、午前中は藤原務正先生(赤羽教会長)の講話を拝聴、昼食を挟んだ午後は、映像教材(続・金光さま とりつぎ物語)を視聴した後に、二十名の参加者は四グループに分かれ、「信心を伝える為に私たち一人ひとりが取り組む事柄は何か」について懇談を行った。

### 群馬・埼玉教会連合会

七月二十八日、第二回「群島のつどい」が開催され、足尾銅山見学に三十七名が参加した。坑道では江戸時代から昭和までの採掘技術の進歩を学び、続く足尾環境学習センターでは、鉍毒排水が渡良瀬川に流出して日本初の公害事件となつたこと、亜硫酸ガスで禿げ山となったランティアが長年かけて植林していることを



足尾銅山にて

の公害事件となつたこと、亜硫酸ガスで禿げ山となったランティアが長年かけて植林していることを

学んだ。  
参加者からの感想は「一度失った緑は元に戻すのに何十年もかかることを次世代に伝えていきたい。」「環境破壊は今なお続いていっていると感じた。」等。

### 千葉県教会連合会

八月十四日に第二十一回青少年の集い・青少年育成祈願祭を開催した。金光教松戸教会において、講師を含め二十一名が参加した。関東音楽会のご協力を頂き、実際に楽器を吹き、子供達は、龍笛の音が出たと喜んでいった。祭主は、連合会会長により仕上げられ、講話は全限教会菊池瑞昭先生による「道の若葉の育ちを願って」を拝聴した。

青少年・子育て世代、祖父母世代と、世代を超えて楽しい時間を過ごした。



典楽体験

### 東京都教会連合会

東京都教会連合会は、六年間活動した現在の四分制から、来年一月一日より装いも新たに三分制にして、分会活動を展開する事となりました。現行の

分会は年内までとなり、今夏は分会それぞれに特徴のある「分会集い」を開催しました。新たな分会を決める分会改組抽選会は、十月二十二日(火)に行われます。更に抽選会の前には、「これからの金光教を考える」というテーマで、講師に教団会議長・松本光明先生をお招きし、教師会研修会も開催します。

### 神奈川・山梨教会連合会

六月十五日(土)、山梨県布教百三十年記念集いを開催。初日は甲府教会で「お道の信心のすばらしさを学び、信心する喜びを語ろう」をテーマにした研修会に六十五人が参加。講話、信徒体験発表(山梨と神奈川各一名)、全体懇談があり、最後に甲府教会長が「金光教という宝の山を広く伝える努力をしよう」と感話しました。二日目は四十五人がワイナリーと山梨県立美術館を見学。二つの県の信奉者が共に学び共に楽しむ交流が実現しました。詳しくはホームページをご覧ください。



記念集会集合写真

